

<別添資料③>

□ わかる授業づくりのための 『武養スタンダード』（案）

研究班

参加 (活動する)	ルールの明確化	・授業を受ける時のルール（話を聞く姿勢、返事をする、挙手をして指名されてから発表する等）をはっきりと児童生徒に伝える
	刺激量の調整	・授業に関係のない視覚刺激はできるだけ排除する
		・授業に関係のない音刺激はできるだけ排除する
	場の構造化	・教室や使用物品、教材の整理整頓をする
		・MT の位置や児童生徒との距離を適切にとる
		・全員が MT に注目しやすい座席配置にする。また、それぞれの椅子の高さを体に合わせる
・児童生徒の動線に無駄がなく、自然な流れをつくる		
時間の構造化	・ST の配置を適切にとる	
	・授業全体の流れに見通しを持てるような視覚教材を用意する	
理解 (わかる)	焦点化	・無理のない適切な時間配分で設定する
		・授業全体の流れに見通しを持てるような視覚教材を用意する
	展開の構造化	・本時の目標を最初に示す
		・一授業の目標を絞り、シンプルなものにする
	スモールステップ化	・山場から逆算して授業を構成する
		・授業に起承転結をつけて構成する
	視覚化	・一連の動作や概念を細かく分解して一つずつ提示する
		・前時の復習をしつつ、次時でプラスアルファを加えていく
		・イラスト、写真を使う
	身体性の活用	・手指サインを使う
		・指差しや赤枠等を活用する
		・聞くだけの授業ではなく、実際にやってみる
共有化	・定着させたい言葉を「武養サイン」等の手指サインと合わせて呈示し、模倣するよう促す	
	・ペア学習やグループ学習の場を設ける	
	・授業の最後に振り返りを発表する時間を設ける	
習得 (身に着ける)	スパイラル化	・取り組みの様子を撮影するなどして、全体で鑑賞する
		・既習事項を活かした学習内容が授業の中に組み込まれている
活用 (使う)	機能化	・授業の題材・単元に関連・系統性がある(学年、教科領域、単元)
	適用化	・授業で学んだことを、日常生活で活かせる場面を想定している
		・他の場面や設定でも応用する機会を設ける。

※ 「わかる授業」づくりの参考にしてください。今後の実践を通じて、この武養スタンダードをより洗練されたものに作りあげていけたらと思っています。